

東京自転車グリーンマップのユーザーインターフェースに関する研究 —相互評価システムおよび投稿動機を高めるための方策—

堀内 正弘

多摩美術大学 造形表現学部 デザイン学科

連絡先: <horiuchi@tamabi.ac.jp>

(1) 動機: 最近パリ市で大規模なレンタサイクルが導入されたが、欧米諸国では行政が率先して地球温暖化防止の具体として、車に代わる交通手段としての自転車の活用を推進している。それに対し、日本の行政はまだ車環境の整備を最優先に推進している。また日本では「地球温暖化防止のために自転車を使おう」ということでは、一般市民の共感を得にくいので、自転車のメリットを感じた多くの人が自然に行動を起こす、そしてその結果として車の使用量が減り、二酸化炭素の排出を減少させるといった結果を得る方が現実的である。東京自転車グリーンマップ(以下 TCGM と記す)は、そのような目的をもったメディアとして制作されている。

(2) アプローチ: 日本には自転車を活用するために有効な情報源が少ないので、TCGM はタイムリーな情報の交換・共有を目的としたオンライン版と、携行に便利な印刷・PDF 版のそれぞれの特徴を組み合わせ合わせて展開している。環境省の助成と企業の協賛により無料配布が実現されている。オンライン版と印刷・PDF 版に共通したインデックスとして使われ

ているのが世界共通のグリーンマップアイコンである。特にオンライン版は情報が増大すると表示が困難になるので、アイコンによるレイヤー分類表示は極めて有効である。グリーンマップは一般市民によって提供された情報を基本とする。オンライン版では相互評価システムにより情報の検証および、関連づけがなされる。検証の基本は情報と情報提供者への評価ポイントの付与であり、高ポイントの情報および高ポイントの投稿者による情報は信頼性が高いと考えられる。

(3) 結果: 高ポイントを得た情報、および情報提供者が常に上位に表示されるために固定化する傾向があり、一般利用者が気軽に情報提供をする流れを生み出すことが課題となった。そこで KML (Keyhole Markup Language) の書き出しによる、Google Earth 等での表示のおよび、個人ブログやホームページとの関連づけを行った。コメント機能の実装、個人の投稿情報を一覧できる「マイページ」の導入による、リピーターの定着も図ることで、オンラインコミュニティの構築を図っている。

図 1: 東京自転車グリーンマップ
グリーンマップ
(オンライン版)
<http://cyclingmap.jp>

